

# 日本の森林資源の充実度

## (2) 森林資源の充実とその利活用の状況

### (我が国の森林の特徴)

我が国は、国土面積3,780万haのうち森林面積が2,508万haと約3分の2を森林が占める世界有数の森林国<sup>\*1</sup>である。森林のうち約6割に相当する1,479万haが天然林等、約4割に相当する1,029万haが人工林となっている(資料I-1)。

森林の蓄積は平成24(2012)年3月末現在で約49億m<sup>3</sup>となり、このうち人工林が約30億m<sup>3</sup>と約6割を占めている。森林全体の蓄積量はこの半世紀で約2.6倍になっており、特に人工林では約5.4倍にも達している<sup>\*2</sup>。さらに、人工林の半数以上が、一般的な主伐期である10齢級以上と本格的な利用期を迎えており、2020年時点には、10齢級以上の主伐期を迎える人工林は約7割と見込まれる<sup>\*3</sup>など、森林資源はかつてないほどに充実している。

一方で、手入れが行き届かず、国土の保全や水源<sup>かん</sup>の涵養、地球温暖化防止等の森林の公益的機能が十分に発揮されていない森林も見受けられる。林野庁が市町村を対象に行ったアンケート調査では、約8

平成29年度森林・林業白書より

日本は、国土面積の約3分の2が森林です。

森林全体の蓄積については、この半世紀で約2.6倍にも増えています。

人工林だとさらに大きく、約5.4倍にも増えています。



### 第1章

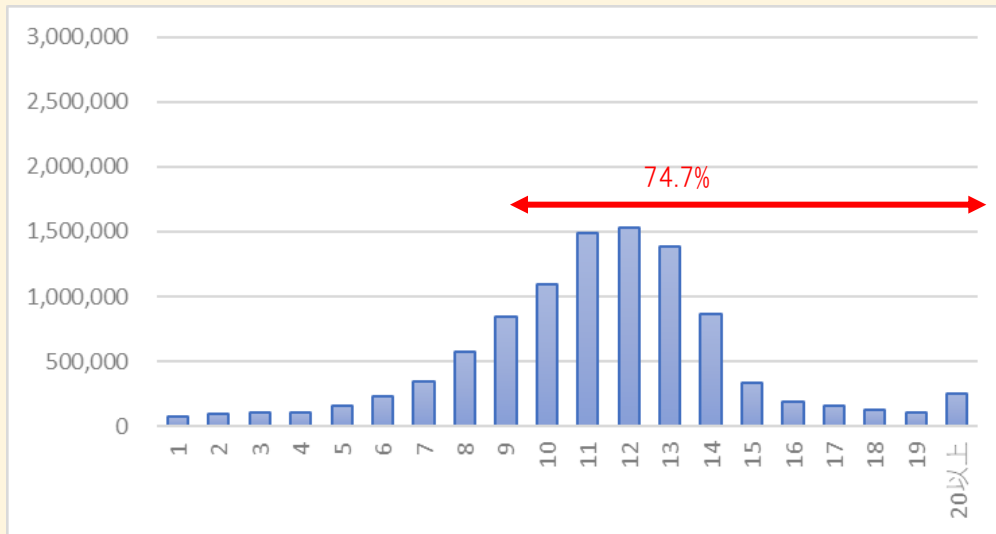
## 新たな森林管理システムの構築

我が国の人工林資源は、その半数以上が主伐期を迎えるなど本格的な利用期を迎えている一方、森林所有者の多くは小規模零細で経営規模を拡大する意欲等は低く、積極的経営を期待できない中で、意欲と能力のある林業経営者に森林の経営管理を集積・集約化するための新たな仕組みの構築が求められている。

本章では、我が国の森林管理をめぐる課題について、欧州の林業国であるオーストリアとの比較を通じて明らかにするとともに、これまでに取り組まれてきた森林・林業の再生に向けた取組の成果と現状について記述する。そして、こうした現状や課題を踏まえた上で、森林の有する公益的機能の発揮と林業の成長産業化を実現するために不可欠な、森林の経営管理の集積・集約化を進めるための「新たな森林管理システム」の構築の方向性と、併せて必要となる川上と川下の連携について記述する。



## 日本の人工林 齢級別分布(現状)



森林・林業統計要覧2023より作成

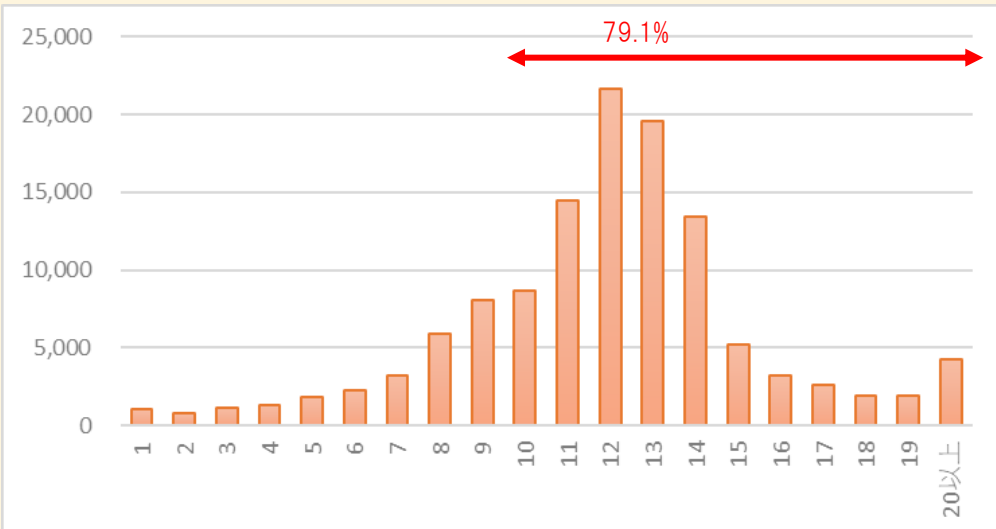
実際に人工林の状況を見てみましょう。

左のグラフは、縦軸が面積(ha)、横軸が齢級です。

※齢級とは、林齢を5年の幅でくくった単位です  
苗木を植えた年を1年生として、1～5年生を「1齢級」と数えます

樹種にもよりますが、人工林に多い杉の場合は、9～10齢級程で利用ができるようになる、とされています。

## 栃木県の民有林人工林 齢級別分布(現状)



令和4(2022)年版栃木県森林・林業統計書より作成

日本においても栃木県においても、10齢級以上、つまり46年生以上の森林が全体の4分の3を占めており、森林資源が利用期を迎えている状況が確認出来ます。